

(中期財政見通しから見る) 添田町財政の 課題 と 対策

(これまで) 人口減・高齢化は進行しているものの財政は健全な状態ですが、貯金は減少傾向、借入金が増加

- 貯金(財政調整基金) … 平成27年度 33億円 → 令和5年度 42億円 (+9億円) → 令和7年度 40億円 (-2億円)見込
- 借入金(地方債) … 平成27年度 65億円 → 令和4年度 64億円 (-1億円) → 令和7年度 118億円 (+54億円)見込

(現在・将来の課題) 施設の老朽化や借入金の増加により将来に向けて財政上の課題があります

(現在の課題)

- 町税などの自主財源が少ない。固定収入(税収+国からの交付税)だけでは、最低限必要となる「基礎的な町の運営費」しか賄えない。
→ 家計に例えると「自分で稼ぐ給料だけでは生活費でぎりぎり。趣味・嗜好、将来への蓄えに回す金銭的な余裕がない。」状況

(将来の課題)

- 人口減・高齢化 → 税収や国からの交付税が減少(収入の減)
- 公共施設の老朽化 → 物価高騰も影響し、維持管理費の増加(支出の増)
- (R5~R7)大型事業の財源として借入金が増加 → (R8~10)返済額が更に増加 → 他の支出予算を圧迫 もしくは 貯金の取り崩し

(これから) 「課題」に対する取り組みを行わない場合、人口減・高齢化の進行とあわせて財政状況は厳しくなる見込みです

- 将来の借入金 → 借入金現在高の増加に伴い、毎年の返還額も増加する見込み(学校施設整備など計画的な大型事業の影響)
- 将来の貯金 → 増加した借入金返済をまかなうため、貯金を取り崩さざるを得なくなり、貯金残高は減少する見込み

添田町が「住み続けたいまち」であるために健全な財政状況の維持に取り組みます

- 子どもたちの世代に負担を残さないために → 借入金返済額より毎年の借入額を少なくし、借入金を減らしていきます
- 町財政に影響のある新たな事業を行うときは → 将来の町民に遺す財産と、それによって負うことになる負債のそれぞれについて、
将来の町民が望むものか、また健全な財政状況を将来の町民へ引き継げるか
という視点を持って、厳格に審査します